






新領域創成科学研究科 入学時研究倫理ガイダンス

2024年4月

0

大学院で学ぶ



研究面

- 知識の修得
- 研究の進め方
- 論文の書き方
- その他

倫理面

- 法令(法律, 政令, 省令)
- 指針
(国, 学会, 大学, 研究科, etc.)
- 慣習, エチケット
- 研究者の心構え
- 公正さと責任
- 公的資金等運用の社会責任
- その他

1

社会人としての研究者

他の研究者

成果, 権利, 安全
の尊重/軽視

➔

自分自身

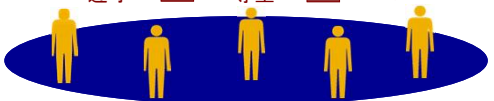
成果, 権利, 安全
の尊重/軽視

法令 指針



独創性 新規性 個人情報 発表内容

安全性 先行研究 著作権・Copyright

↑ 遵守 ↑ 尊重 ↑ 責任



2






修得すべき項目(1)

一般的な項目

- 法令・指針等の遵守
- ヒトや動物を対象とした研究における倫理
- 個人情報の保護と安全なデータの管理
- 研究に対する守秘義務
- 共同研究に対する誠実さと責任
- その他

3






修得すべき項目(2)

実験データの取扱い

- 研究日誌(ラボ日誌)の書き方
- 実験データに対する公正な評価方法, 恣意的な操作の排除
- 実験環境, データ, 資料, プログラム等の管理や記録方法
- その他

4

修得すべき項目(3)

社会調査・学外研究

- 実施場所(外国, 地域, 学外組織など)の法令, 指針, 許可申請の必要の有無等の事前確認と, それらの遵守
- 調査対象者のプライバシー保護, 人権の尊重
- 協力者の自由意志に基づく調査・研究(強制的排除)
- 緊急時の連絡体制
- etc.

5

修得すべき項目(4)

論文執筆時の注意すべき項目

- 適切な用語や文章の使用
- 文献の正しい引用法
(剽窃/盗用の疑義が生じないようにする)
- 著作権やCopyrightへの対応
- 共著者の順序, 共著者の責任
- 二重投稿の禁止
- 発表論文の誤りの訂正法
- その他

6

修得すべき項目(5)

公的研究費等の適切な使用

- 公的資金使用に対する社会的説明責任の自覚。
- 適切な物品の発注・納品検収業務。
- 適切な謝金・旅費申請と受給。
- 研究費購入物品の転用・転売の禁止。
- 研究機関ごとのルール習得の重要性。
- その他

7

修得すべき項目(6)

公的研究費等の適切な使用(2)

- 研究費(設備費, 消耗品費, 出張旅費等)の適切な使用
不適切な使用, 目的外の使用は厳禁。
大学で決められた会計処理手続きを守る。
《不正利用の例》
(1) 預け金(プール金)
(2) 架空旅費交通費(カラ出張)
(3) 架空人件費(カラ謝金)
- 物品(設備, 装置, 消耗品等)の適切な使用
本来の研究や教育目的以外に使用しない。
換金性の高い物品の管理を徹底する。

8

修得すべき項目(7)

公的研究費等の適切な使用(3)

- 納品検収業務とは, 研究室で物品を購入した際に, その物品が確かに納品されたことを確認する作業です。研究室によっては, 大学院生の皆さんに検収業務の補助をお願いしている場合があります。検収業務の補助は, 研究室の検収責任者とともに, 納品されたことを確認し, 納品書類に日付と署名を記録することです。**この業務は研究費運営管理の一端を担うという責任と自覚が必要です。**業者との馴れ合いや, 業務が形骸化しないよう気を付けなければなりません。

9

修得すべき項目(8)

倫理講習受講「確認書」について

「大学院学生の公的資金への申請」
東京大学では, 2015年度から大学院生の公的資金の申請にあたり(学振DOを含む)倫理講習受講「確認書」の提出が求められます。
・その他, 各部署で開催される講習会への積極的参加や, 研究倫理教材の通読, e-Learningシステムへの登録・参加を求められることが有ります。

「大学院学生の納品検収業務」
東京大学の研究室では,
(1) 100万円未満の物品の納品検収は各研究室で行われ, 少なくとも1名の検収責任者(教職員)と合わせ2名分の検収確認が必要です。
(2) 各研究室の検収責任者, 及び検収補助者は, 登録制です。

10

不正を行う原因と対策


原因

- 無知
- 不当な自己正当化(周りもしている)
- プライドや見栄(よい成果を出したい)
- プレッシャー(≠切日)
- 焦り(研究をサボった付け, 研究の遅れ)
- その他


対策

- 研究手法および研究倫理に対する十分な理解
- 絶え間ない研究への努力
- 誘惑に負けない強い意志
- 問題が生じたときの早めの相談
- その他

11




処罰／社会的制裁




- 剽窃／盗用などの重大な違反
 - 懲戒処分（在学中）
 - 学位取消（卒業後発覚した場合）
- 研究倫理違反
 - 研究者として不適格と見なされる
- 公的研究費等の不正使用
 - 研究者個人と大学に厳しい措置（返金、配分停止・削減など）

12

12



生成系AI (chatGPT等)の利用について




生成系AI (ChatGPTなど)の利用にあたっては、それぞれの場面(国、大学、組織、授業、論文作成など)に適用される利用ポリシー¹⁾に従い、以下のことに注意する。

- 出力結果に不正確さ、誤り、偏見などが含まれている可能性に留意する。出力結果を鵜呑みにせず、適切な文献を探して引用すること。
- 他人の著作権や知的財産権を侵害しないこと。
- 安易に機密情報・個人情報を入力せず、適切な対応をすること。
- 大学院生として社会的な良識に照らして適切な使い方をすること。


1) 東京大学の利用ポリシー <https://utelecon.adm.u-tokyo.ac.jp/docs/ai-tools-in-classes-students>

13

13




新領域創成科学研究科 「研究倫理ガイドライン」の内容




1. 研究者としての心構え
2. 研究の独創性
3. 研究経過の記録と保存
4. 公正かつ責任のある公表
5. 共同研究における誠実さと責任
6. 教員の責任
7. 研究における法と指針の遵守
8. 社会調査上の倫理
9. 公的研究費等の適正な運用
10. ヒトを対象とする医学・生物学研究の倫理と安全

14

14



詳細版ガイダンスと理解度試験



詳細版ガイダンス

- 入学、進学後6ヶ月以降、半年毎に詳細版のスライドを用いて実施する。

理解度試験

- ガイダンス終了後に行われる理解度試験に合格しないと学位論文を提出することはできない。
- 合格点に達するまで、詳細版ガイダンスを受講し、理解度試験を受け直すことができる。

15

15